広報 すぎなみ

「行きたい所へ行く」 を、サポート。

障害があり外出するのが難しい方に同行し、安心と安全をサポートする移動支援のガイドヘルパー。利用者一人一人の個性に寄り添い、時にはまちの人と利用者のコミュニケーションをスムーズにする役目も果たします。誰もが当たり前に行きたい所へ行くことができる—そんな社会の実現を目指すガイドヘルパーのお二人に、仕事の内容、やりがいなどを伺いました。



Contents -主な記事-

6 │ 移動支援事業を見直しました 9 │ 9月21日(火)~30日(木)は秋の全国交通安全運動 16 │ 新型コロナワクチン接種の予約枠を追加します

🏫 〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 │ 🕓 3312-2111(代表)FAX 3312-9911(広報課直通)│ 🖳 区ホームページ:https://www.city.suginami.tokyo.jp/ │ 🎹 発行:杉並区 │ 🎍 編集:広報課



新型コロナウイルスの感染状況によっては、本紙掲載の催し等が中止になる場合があります。



障害者の移動支援 すぎなみビト メ ガイドヘルパー

interview

動に著しく困難のある知的・身体・精神等の障害者 業」を行っています。余暇活動支援のほか、障害の あるお子さんの通学の支援なども担っています。

ガイドヘルパーは、移動の際の付き添い、見守り、 車いすの介助、コミュニケーションの支援など、障 害者が安心・安全に外出先で過ごせるようさまざ まな場面でお手伝いをします。区では、屋外での移 に対してガイドヘルパーを派遣する「移動支援事

森川慶太

プロフィール:森川慶太(もりかわ・けいた) 杉並区在 住。祖母の在宅介護をきっかけに福祉の道へ。高齢者の訪 問介護ヘルパーを経て、杉並区にある障害者の在宅生活を 支援する事業所「ひゅーまんネット」でガイドヘルパーの 仕事をスタート。現在は管理者を務めながら、ガイドヘル パーとして障害者の外出の付き添いなどを担う。

CASE-1 | 森川さんの場合

利用者さんの価値観に寄り添った支援が大切です。



一ガイドヘルパーを始めたきっかけを教えてください。

祖母が生前に自宅でヘルパーさんの支援を受けている様子を見 て、ヘルパーの仕事に興味を持ちました。高齢者向けの訪問介護 ヘルパーを経て、ガイドヘルパーを始めたのは12年前。知的障害 のある方と接するのは初めてでしたが、訪問介護で培ったスキル を頼みの綱に飛び込みました。最初の支援は自閉症の方がボウリ ングに出かける際の同行だったと思います。初日に「なんて楽し い仕事なんだ…!」と感動し、その気持ちのまま続けてきまし た。今はコロナの影響もあり休日の余暇支援は減っていますが、 平日に作業所などで仕事を終えた利用者さんが喫茶店に寄った り、運動としてウオーキングする時などに付き添っています。

―どんな時にヘルパーの仕事のやりがい、喜びを感じますか?

なかなか一人で外出することがかなわない利用者さんが、出掛 けた先で「楽しい」という気持ちを体全体で表現している姿を見 ると、私も同じように楽しい気持ちになります。その笑顔に同行 できることは本当に喜びです。利用者さんが楽しんでくれること が、仕事のやりがいのほぼ全てだと言えます。同時に、ガイドへ ルパーを利用することで、ご家族が自分の時間が持てることを喜 んでくださるのもうれしいです。

─障害のある方と共にまちで行動する中で、どんなことを感じますか?

ガイドヘルパーの役割は利用者さんと周囲の人たちとの潤滑油 になることです。できるだけスムーズに過ごせるよう、利用者さ んの特性を理解し、順番が待てない、欲しいものに手を出してし まうなど、起きそうなことを予測して前もって声掛けするよう心



掛けています。何か困ったことが起きたのな ら、周囲に対してヘルパーが説明し理解して もらうことも大切です。障害者がガイドヘル パーと共に余暇を楽しむ風景というのは以前 に比べて増えています。そんな風景が当たり 前になっていくといいなと期待する一方で、 彼らがどんな人たちなのかよく分からない、

どう接すればよいのか分からないという人はまだまだ多いと思い ます。彼らは決して特別な存在ではなく、私たちと変わらない一 個人です。そのことを知っていただき、もしまちで見かけたら見 守っていただくだけでありがたいです。

一最後に、ガイドヘルパーに興味のある方へメッセージをください。

ガイドヘルパーに求められるのは「利用者さんの価値観に寄り 添うこと」なのかなと感じています。以前テーマパークに同行し た時、買い物だけを楽しみたい利用者さんに、いろんなアトラク ションに乗りましょうよと、自分の価値観で言い続けたことがあ りました。やはり大切なのは利用者さんの価値観を尊重するこ と。でも1、2割くらいはこちらの価値観を提案して新しい世界

を広げる、それがこの仕事の魅力でも あります。人に寄り添うことができ、 人と接することが好きならどんな人で も挑戦できます。ガイドヘルパーの需 要はとても増えています。興味のある 方はぜひ挑戦してみてほしいです。

なみ地域大学担当☎3312-2381



参加者募集中!

□ 知的障害者ガイドヘルパー講座

知的障害者のガイドヘルパーとして活動するための知識 や技術を学ぶ講座です。実習や事業所紹介も行います。

時10月16日出午前9時~午後5時・17日(日)午前9時~午後5 時30分、12月19日(日)午前9時30分~正午(10月18日(月)~ 12月15日例の間に1日実習あり〈計4回〉) 定 18名(抽選) 費2000円 申詳細は、すぎなみ地域大学ホームページ(右 下2次元コード)・募集案内(駅広報スタンド、区 役所、区民事務所、図書館等で配布)参照▶申 込締め切り日=9月26日(必着) 間地域課すぎ



早野節子

プロフィール:早野節子(はやの・せつこ) 板橋区在 住。重度心身障害者入所施設で25年間指導員を務めた後、 重度心身障害者の親が立ち上げた「NPO法人かすみ草」に 参加し在宅支援の道へ。現在は法人代表を務めながら、ガ イドヘルパーとして障害者の外出の付き添い、障害のある 児童の通学支援などを担う。



CASE-2 | 早野さんの場合

「楽しく外出できた」という成功体験を支えたい。



一ガイドヘルパーを始めたきっかけを教えてください。

重度心身障害者の親御さんたちが杉並区でNPO法人を立ち上げ る際に参加したことが、在宅支援に関わり始めたきっかけです。 現在は法人代表を務めながら、ガイドヘルパーとして移動に関わ る総合的支援、障害がある方々の「経験」をサポートする役割を 担っています。

以前は重度心身障害者入所施設に勤めていたのですが、障害者 支援という枠組みは同じでも施設と在宅とではずいぶん違いがあ り、当初は驚きました。施設では人手の問題もあって、いつも支 援が必要な利用者さんを待たせてしまっている気持ちが強かった です。ところが在宅支援は真逆で、待っているどころか私が来て も知らんぷりといったことさえあります(笑)。そして、そんな 利用者さんと、時間に追われることなくじっくり向き合うことが できるのも在宅支援の醍醐味です。

一移動支援で大切にしているのはどのようなことですか?

安全を確保することはもちろん、利用者さんがいい気持ちで1日 を終えられることを心掛けています。例えば外出先で人に迷惑を 掛けてしまった、失敗してしまったということがあると、私たち にとっては些細な出来事でも、ご本人にとっては心の傷になって しまう可能性があります。ですから、そんな思いを抱かなくて済



むように、やりすぎない程度に先回 りして支援することが大切です。 「今日は楽しい気持ちで外出できた」 という成功体験は、利用者さんのコ ミュニケーション力の成長につなが ると思うのです。言葉によるコミュ

移動支援事業を見直しました

区では、移動支援事業をより利用しやすくなるよう、利用内容 や対象者などを3年度から見直しました。

概要は6ページをご覧ください

ニケーションが難しい方とでも、気持ちが通じたと感じる瞬間が あり、やはりそんな時はうれしいです。

一 障害のある方と向き合ってきて、改めて社会に届けたいメッセ ージは何ですか?

利用者さんの中には、ある意味生き づらさを抱えている方が多いのかもし れません。ピョンピョン跳ねたり、大 声を出したり、方法がいろいろなので すが、みんな自分なりに困難を解決し ようとしている真面目に暮らす人たち



でもあります。私たちは利用者さんの意思を尊重しながらも、社 会の常識から外れないように支援を行うよう心掛けています。

地域の皆さんも日常の場で障害のある人と出会った時はぜひ普 通に接してください。もし迷惑なことが起きた時は見て見ぬふり をするのではなく「迷惑だよ」と言ってくださっていいのです。 その際、できれば優しく注意してくださるとありがたいです。障 害のある人が普通に受け入れられる社会であってほしいと私は思 います。

ガイドヘルパーは正解のない仕事で、常に自分が試されている なと感じます。何より大切なのは相手の思いを想像すること。 違っているかもしれなくても、想像してみること。それができる人 はガイドヘルパーにきっと向いているのではないかと思います。

